

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

古墳と地蔵を訪ねて

(上三川・坂上)

上三川町は古墳時代の首長のお墓である古墳が多くある地域です。今回紹介する上三川南部から坂上地区にかけては、特に多くの古墳が所在し、石室の形が良くわかるものや、古墳の形などがよくわかるものがあります。

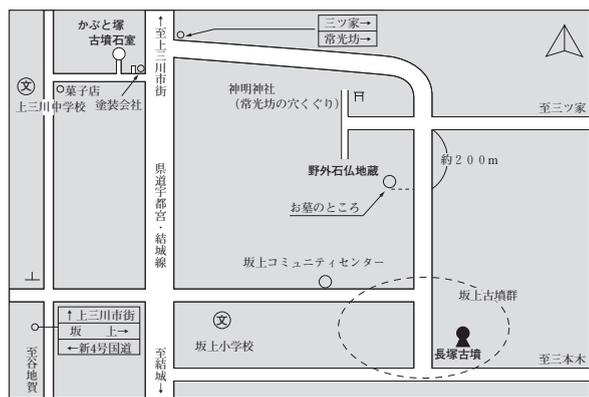
上三川町の中心部から、県道宇都宮・結城線を南に下り、県道真岡・上三川線を越えて200mほど進み西側に入ると『かぶと塚古墳石室』があります。かぶと塚古墳は、6世紀の円墳で、直径が40mある大きなものでしたが、長い間に古墳の土が取り除かれて、2m近くの高さがある凝灰岩(大谷石と同じような石)でつくられた石室が露出するようになり、現在のような姿になっています。当時、この地域を治めた実力者が葬られた施設を観察することができます。

県道宇都宮・結城線を南に下ると、坂上小学校に至りますが、小学校の東側一帯が『坂上古墳群』になります。坂上古墳群は6世紀の古墳群で、周囲には大小20以上の古墳があります。ほとんどが円墳ですが、唯一長塚古墳のみが「前方後円墳」と呼ば

れる、平面が鍵穴の形をした古墳で、全長は42mもあります。

坂上古墳群から北に進むと、常光坊地区に入ります。ここにある墓地の一角にも古墳があるのですが、この上には町内最大の全長が2・05mを超える『野外石仏地蔵』があります。言い伝えでは、普門寺の東側にあつたものが、明治時代初めの廃仏毀釈によって、破壊されることを恐れた当時の人々が、ここまで移したものとされています。

そろそろ、暖かい季節になり、歩きやすい季節になりました。身近にある文化財を見学に歩いてみませんか？きつと上三川の今まで知らなかった一面が見えてくるはずですよ。



た報短歌

はらからと里の無事など伝へ合う

受話器に梅の便り加へて

稲葉 敬子

謝し乍ら一日一善続け来しも

散歩も中止安静すべしと

小島 キミ

道行けば人呼ぶ如く香を踏んで

垣根に白き沈丁花さく

高田 幸子

天地の怒りと思う天変の

雪よ北陸に穩し降りませ

武藤 ひさ

梅の香のかすかに白ふ寺の墓

手桶の水もわづか温めり

斎藤アツ子

隣家の垣根にすけし路の臺

そつと顔出し春を感じる

井沢 和江

もみ色の空を迎ぎて亡母を恋う

手縫いの裏地の色と重なり

菊池 美代